

自 2025 年4月 1日
至 2026 年3月31日

2025年度 事業報告書



公益財団法人ハーモニセンター

目 次

2025年度の概況.....	1
1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営.....	2
1.1. キャンプ	
1.2. 日帰り企画等キャンプ以外の自主事業イベント	
1.3. 蓼科ポニー牧場	
1.4. 小貝川ポニー牧場	
1.5. 相馬ポニー牧場	
2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理	9
2.1. 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の2年目)	
2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場(受託・1年契約)	
2.3. 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の2年目)	
2.4. 板橋区こども動物園(指定管理・指定期間5年の1年目)	
2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)	
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	14
3.1. 「馬という領域」ミーティング	
3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業	
3.3. 馬が介在する活動の運営に関する指導と実習の場等の提供	
3.4. Riding for all に向けて	
4. 川べり環境の整備及び活用の推進	16
4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム	
4.2. 河川騎馬パトロール	
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進	16
5.1. モンゴル大草原乗馬交流	
5.2. 日独青少年相互交流計画	
6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	18
6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行	
6.2. WEB広報	
7. その他.....	18
7.1. 規程変更と新設	
7.2. 馬の管理	
7.3. カウンセラー・職員等の研修	
7.4. 会議等	
7.5. 法人事務	
7.6. 賛助会員	
7.7. 法人の運営体制の充実を図るための取組	

2025年度の概況

2025年度のハーモニーセンターは、長年築き上げた事業に新たな変化を加えながら深化させると同時に、熟考を重ねながら資源の取捨選択を進めてきました。

キャンプ事業は、ポニーキャンプを中心に計40コースを行い、参加者総数は1,434人と前年度から88人増加しました。馬のケアに特化した「グルームキャンプ」をあらたに行ったほか、在来馬の魅力を伝えるキャンプを全国4か所で実施するなど、馬をパートナーとした教育プログラムの質的向上と多様化を推進しました。また、現役カウンセラーが主体となって運営する文化祭「ガキンチョ魂」や「ハーモニーソングライブ」といったキャンプ以外の事業も盛況に終わり、キャンプの重要なプレイヤーであるカウンセラーの活動の幅が大きく広がりました。

受託事業も、気候変動による夏の酷暑や、子供の数の減少など厳しい外部環境はあるものの、各事業所の特性を生かした工夫をこらし、地域密着型の動物介在活動を展開し、住民に親しまれる施設運営を行っています。たとえば、新たな5年間の指定管理期間の始まった板橋こども動物園では、公園全体の管理を担うことになっています。そこで、区内の市民団体と協力して、公園内でプレーパークのイベントを行いました。このイベントは次の年度も引き続き行われる予定で、公園全体の魅力を高めることにつながっています。

また、碑文谷公園でのポニー舎断熱改修、水元スポーツセンター公園での馬場整備など、行政と連携した環境改善も進めました。この他にも、各施設で地域の高校・大学の授業・実習等を受け入れるなど、地域社会への貢献を高めています。

一方で、2025年度は長年親しまれてきた活動拠点の閉鎖という、大きな決断を行った年でもありました。

2001年の開設以来、20年以上愛されてきた小貝川ポニー牧場が、3月末をもって閉場しました。閉場にかかる説明会やクロージング・イベントを通じて、利用者の方々がこの場所に寄せてくださった深い信頼と、ここが多くの子供達にとって「安心して自分らしくいられる場所」であったことを改めて痛感しています。また、東日本大震災以来使用していなかった相馬ポニー牧場についても、東京と現地でクロージング・イベントを行い、震災を乗り越えた活動の歴史と意義を関係者で分かち合い、正式な閉場を迎えました。

施設の再編が進む中、蓼科ポニー牧場ではシンボルであるカナディアン・シーダー・ハウスの改修が完了しました。次の年度には、宿泊棟アメリカン・ハウスの改修が控えており、2027年度の開設50周年に向けて、ハーモニーセンターのフラッグシップ施設としての整備は続きます。

「Riding for all」の理念の下、より多様な対象者に向けた事業も引き続き行われました。

医療的ケア児とその家族や里親子等社会的養護下にある子供とそれを支える大人達を対象としたプログラムを行ったほか、障害者がモンゴルの大草原を疾走する夢を叶える「Road To Mongolia」プロジェクトを始動させました。これらのプログラムは助成金を活用したり、福祉や医療などの専門性のある方々とのパートナーシップの下で展開されています。

2025年度は、小貝川・相馬という歴史ある施設の閉鎖という痛みを伴う決断を事業の健全な継続のための重要な一歩と捉え、蓼科を拠点とした活動の深化や、社会の変化や多様な社会ニーズへの対応といった、未来への種まきを着実にを行った一年であったとすることができます。

1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営

1.1. キャンプ

今年度もポニーキャンプを中心に、さまざまなキャンプを実施した。

ポニーキャンプでは新たな試みとして、馬のお世話に内容を特化した「グルームキャンプ」を行った。集客に課題のあった週末キャンプに代わるもので、小学4年生～高校生を対象として23名が参加した。講師には、幼少期にハーモニセンターのキャンプに参加し、今はグルームを仕事にしている方を迎え、新たな魅力あるキャンプとすることができた。ファミリーキャンプは、前年度、改修工事のため冬期は行わなかったが、この年度は冬期も含めて実施を計画した。しかし、冬期の2コースは参加者が最少催行人数に達せず中止となった。前年度実施されなかった影響も含めて検討し、実施回数や広報の見直しを進めたい。

今年度も、TAW(一般財団法人 Thoroughbred Aftercare and Welfare)の助成金を活用した、在来馬キャンプを4コース実施した。今回で3回目の実施となる対馬キャンプのほかに、開田高原、遠野、宮崎・鹿児島という3コースの新たな在来馬キャンプを行い、それぞれ新たな土地で馬の魅力を学び、新しい体験をすることができた。

ハケ岳縦走、スキー、スケートといった野外キャンプも根強い人気があり、多数の参加者を迎えて行うことができた。しかし、スケートキャンプについては、長年お世話になっていた宿舎が今回を最後に利用できなくなり、スケートリンクの確保も難しくなっているため、今後は1泊や日帰りなども含め、形を変えての実施を模索することとなる。

これらを合わせて37コース(ポニー20、ファミリー7、野外2、スキー3、スケート1、在来馬4)、受託キャンプと助成金を得て行うキャンプ(里親子対象のキャンプ)を加えると、前年度よりも1コース多い40コースのキャンプを行うことができた。ポニーキャンプは夏、春は全てほぼ定員に達し、多くの子供達に参加してもらうことができ、参加者総数 1,434 人と 88 人増加した。



1.2. 日帰り企画等キャンプ以外の自主事業イベント

日帰り企画の実施回数は3回と、前年度よりも少なくとどまった(別途、小貝川デイキャンプ3回を実施)。一方で、カウンセラー主体のイベントには力を入れることができ、秋にカウンセラー文化祭「ガキンチョ魂(旧ええじゃないか)」を実施、100名近くの参加者を得て、50名を超えるカウンセラーが運営に携わった。

また、新たな企画として、カウンセラー活動に寄せられた寄付金を利用して、2月に「ハーモニイソングライブ 2026～The Legacy～」を実施した。現役カウンセラーが主体となり、スタッフ、OBカウンセラーを巻き込んだコンサートには200名を超える来場者があり、カウンセラーの熱量とハーモニイソングの魅力を多くの人に届けることができた。

また、小貝川ポニー牧場を会場に、複数回のワンデイキャンプを行ったほか、夏に助成金事業として実施している里親子キャンプの既参加家庭を対象としたワンデイキャンプも新たに行った。今年度をもって小貝川ポニー牧場は閉場したが、新たな活動のフィールドを探し、今後も気軽に参加できるイベントを実施していきたい。



1.3. 蓼科ポニー牧場

前年度の1月から始まった、蓼科ポニー牧場のシンボリック建物であるカナディアン・シーダー・ハウス(A棟・食堂)のリノベーション工事が4月に竣工。断熱材を入れ直し、二重窓としたことにより、夏場は涼しく、冬場は暖かく過ごしやすい建物に生まれ変わった。また、今まで男女共同トイレだったものを、個室トイレ4室に変更し、格段に利用しやすくなった。2024年度に竣工した宿舎メキシカンハウスの宿泊利用も年々増え、2026年度には、宿舎アメリカン・ハウスのリノベーション工事も予定されており、より使いやすく快適な施設に生まれ変わっていくとある。

今年度も、長期休暇期間のキャンプや週末の宿泊事業・乗馬レッスンだけでなく、不登校児支援プログラム「ひだまりファーム」、牧場を拠点とした野外保育「牧場ようちえん ぽっこ」(任意団体「ぽこあ ぽっこ」による運営)もあり、牧場には週末だけでなく、平日も年間を通じて子供の声が響き、笑顔が見られた。また、月2回の活動「蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)」も常にキャンセル待ちがいるほどで、蓼科ポニー牧場が、ポニーをパートナーとして「生きる力」を育む居場所として機能していることを実感する。

乗馬レッスン・引き馬の利用者は、前年度より若干数減ってしまったが、障害レッスン(JUMPINGレッスン)数が大きく伸びており、利用者のニーズに応えてきた結果であると感じている。また、牧場の宿泊利用は年々増えており、利用者が居心地の良い居場所として、一定の評価を得ていると感じられる。

A. 宿泊の牧場利用

前年度に引き続き、宿泊利用者が増えた1年だった。自主キャンプ・受託キャンプの実施回数・泊数が増えたほか、大学のゼミ合宿やフリースクールキャンプなど新たな利用者もあり、他団体利用宿泊が前年度の倍近くに増えた。OBOG会も一部合同開催にしてより幅広い層が集まる企画に変わったほか、新たなOBOG会も企画され、新しい利用客を増やすことに成功した。また、企業研修のトライアルも実施し、牧場の新たな利活用を模索した1年となった。

自主・受託ポニーキャンプ:23回(62泊) 自主ファミリーキャンプ:6回(8泊) 広場キャンプ:5回(10泊)
OBOG会:9回(9泊) ライダーズカップ合宿:2回(5泊) 他団体利用:10回(19泊)

B. 研修

職員の馬取扱い・乗馬技能向上及び、全国乗馬倶楽部振興協会の乗馬指導者資格保持者を増員すべく、法人内乗馬技能検定を2回実施した。難易度の高いグレードにも合格者が始り、今後の受験者の取組みに期待したい。

また、各事業所を巡回して指導する研修を前年度より回数を増やして実施した。職員の技能向上が効果の高いリスクマネジメントのひとつとなることを期待し、法人内で馬取扱いの共通認識を醸成することを目指した。

このほかにも、職員が自主的に蓼科へ来場し、乗馬技術を磨こうとしている様子も多く見られた。

職員・カウンセラー宿泊研修:6回(15泊) 巡回研修:7回

C. 日帰り団体の牧場利用

立科白樺高原ユースホステルの「馬の学校(障害児ファミリー対象のプログラム)」(14名)を2回、恒例となっている地元の方を講師とした「行者ニンニク醤油漬けワークショップ」(13名)を開催した。

D. 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)

小1～中3を対象に月2回実施した。参加者は地元中心であるが、東京からの参加者もいる。また、高校生OBOGがボランティアとして参加するほか、年間を通じて多くの活動に父兄が関わっている。

実施回数:22回 のべ参加者:525名

月謝制:¥6,000/月

行 事:前・後期保護者会/ライダーズカップ/牧場フェスティバル/クリスマス会/成果発表会など



E. 移動乗馬教室

7月に長野市の高校文化祭、9月にJRAの馬事普及イベント、10月に八王子で開催されたイベントを訪問したほか、11月にはTAWの助成を受け、茅野市内の保育園・小学校を訪問した。

7月5日 長野市立長野高校 2頭

9月20日 JRA 京都 2頭

10月5日 八王子流鏑馬 2頭

11月10日～14日 JRA蓼科 10か所訪問 のべ60頭

F. 牧場レッスン・引き馬

レッスン・引き馬利用者は前年度に比べ、若干数減少した。その反面、前年度新設した JUMPING レッスンの利用鞍数は前年度より大きく増加し、利用者が更なるレベルアップを求めていることが伺えた。

この10年でレッスン・引き馬の利用者は大幅に伸び、それに伴って宿泊利用者も増加しており、この点からも「キャンプの場所」以外の牧場の役割が広がっていることが感じられる。

レッスン2,019鞍、引き馬1,135鞍

G. その他

・ 第12回ポニーライダーズカップ

10月18日・19日に「ポニーライダーズカップ」を開催し、NPO法人ハーモニカレッジ、NPO法人EPOの子供達も含め、総勢102名が参加した。

・ ひだまりファーム

不登校児の居場所事業「ひだまりファーム」を37回実施し、のべ264名が参加した。参加人数は前年度より減ったが、新規の参加者が増えた1年だった。



- ・ 牧場ようちえん ぽっこ
牧場施設を利用した「牧場ようちえん ぽっこ」の活動が年間を通じて行われた。
- ・ ポニーステイ
8 月末から 1 月中旬まで長野県諏訪市立上諏訪小学校にクリスターを無償貸与した。同馬は、2026 年 1 月 12 日に貸与先の上諏訪小学校にて老衰で亡くなった。
- ・ 牧場フェスティバル
11月15 日に牧場開放事業「牧場フェスティバル」を開催した。567 名が来場し、乗馬体験や餌やり体験、ワークショップなどを楽しんだ。
- ・ 羊の毛刈りショー
ここ数年続けて実施している毛刈りショーは、ひだまりファーム・ぽっこの子供達の恒例イベントになり、地域の方達も招待してにぎやかに行った。参加者30 名。
- ・ 競技会への参加
主にTJPCの子供達、キャンプ参加者・キャンプや動物広場OBOGに声掛けをし、競技会に出場した。
4月29日 長野県春季馬術大会：参加者 16 名
3月9日 長野ホースショー：参加者10 名

1.4. 小貝川ポニー牧場

2000年に「川べりに子供達の賑わいを取り戻す社会実験」として開始した水陸空の3次元プロジェクト。陸部門の目玉として2001年に開場したポニー牧場は、旧藤代町時代から、そして取手市に合併後も、3次元プロジェクトの補助金と、生き生き倶楽部の運営委託費を得ながら運営を続けてきた。しかし今年度末を区切りに、補助金の打ち切りと生き生き倶楽部の運営委託が終了することが決まり、年度末をもって牧場を閉じることとなった。12月末で通常の牧場プログラムは終了、1月上旬に馬を他事業所に搬出、2月途中までで生き生き倶楽部の施設利用を終了させ、3月末の閉場に向けて、馬場と馬房、生き生き倶楽部の返還のための原状復旧を行った。

閉場については、共同で事業を行ってきたNPO法人小貝川プロジェクト21の役員、ポニー教室の参加者と保護者に向けた説明会を複数回実施し、閉場とアフターケアに関する企画会議を行い、ポニーが不在になった後の特別ポニー教室を1月～3月まで月1回ずつ開催した。また、3月15日にはクロージング・イベントを開催し、にぎやかなエンディングを迎えた。

A. 日帰り団体の牧場利用

野外活動機会を求める声は引き続き多くあり、複数の団体の日帰り利用があった。

- ・ 田園調布ワンデイキャンプ
田園調布在住のグループが希望するワンデイキャンプを実施。午前中は乗馬練習や馬とのふれあい体験、午後は小貝川での川遊びやポニーを川に入れての乗馬などを実施した。
実施回数：3回 のべ参加人数：47名
- ・ 東京都ひとり親家庭福祉協議会
東京都在住のひとり親家庭を対象に、不足しがちな体験活動を補うために、午前中は乗馬体験、

午後は河川敷の乗馬散歩、焼き板作り・焼き芋作り体験などを行った。また、昨年度好評だった川プログラムを引き続き実施した。

実施回数:3回 のべ参加人数:98名

- ・ Road To Mongolia

障害のある方の「モンゴルの大草原を馬で疾走する」という夢を叶えるために活動するプロジェクトチームが発足。公益財団法人ハーモニセンターとインクルーシブ運動場サクラボテラスが中心となり立ち上げた。今年度はモデルケースとして、車椅子ユーザーの方の6月のモンゴル行きに向けて、前年度から小貝川ポニー牧場や都内の公園で、合わせて18回の騎乗練習を行った。医師や作業療法士、ハーモニセンターのカウンセラー有志やOBの作業療法師や鍼灸師がバックアップをした。

- ・ 医療的ケア児とご家族のための「ポニーとゆったりふれあい体験」

世田谷区医療的ケア児等支援事業の助成を受けて、医療的ケア児とご家族を対象にポニーと触れ合っていたくイベントを行った。実施にあたっては、医療法人社団のびた(あのねコードモくりにっく)の医師・看護師と理学療法士・作業療法士の協力を得て、ご家族に安心して参加していただける環境を整えた。(全2回の事業のうちのひとつ。もう1回は、国立成育医療センターで行った)

牧場で行う利点を生かして1家庭あたり最大2頭まで配馬し、医療的ケアが必要な子供だけでなく、ご家族にもゆったりとした乗馬体験やふれあい体験を提供した。

参加家庭 8家庭 参加人数:23名



B. ポニー教室

小1～中3を対象に、土曜日クラスと日曜日クラスの2つの教室を月に2回ずつ開催。定員は各クラス35名としているが参加希望はそれを上回っていた。

閉場することが決まり、保護者への説明会を複数回実施したが、子供達と保護者が小貝川に寄せてくれた信頼と役割の大きさを改めて知ることとなった。かねてよりポニー教室の保護者と参加者、ポニーとスタッフで作ってきた「安心して過ごすことができ、自分らしくいられる場所」がしっかりと感じられ、うれしくもあり、切なくもあった。

ポニー教室の参加者は、取手市や県内に留まらず、都内や近県からも継続して来ており、閉場が決まってからはポニー教室のない日でも手伝いに来てくれる回数が増えたほか、通常の乗馬レッスンの利用も増えた。

実施回数：土曜日クラス18回 日曜日クラス18回(4月～12月)

：特別ポニー教室1月(清水公園)・2月(ネーブルパーク)・3月(卒業式)各1回

のべ参加者：1,061名

月謝制：取手市内¥5,000/月・取手市外¥6,000/月

行事：教室の他、夏季合宿@蓼科・夏季合宿(ライダーズカップに積極的な利用者が対象)、ライダーズ直前合宿、ライダーズカップ、クリスマス会
その他、ポニー教室保護者説明会を計5回実施

C. 移動乗馬教室

移動乗馬教室のポニーと馬運車の提供拠点として活動した。ララガーデン川口・亘理いちごっこ・河内町移動乗馬(ポニースクール in 河内)・二子玉川ライズ・世田谷区医療的ケア児等支援事業・河内ドリームフェスティバル・エクセル境町・板橋ズーパークフェスなど前年度に引き続き派遣したほか、TAWの助成金を受けて鳴子へも派遣し、馬のいる時間と体験を届けた。

実施回数：25回(複数日程のものを含む) 参加者：のべ2,490名

1.5. 相馬ポニー牧場

相馬ポニー牧場クロージング・プロジェクトチームにより、東京編と相馬編の2つのクロージング・イベントを開催した。

東京編(4月20日/国立オリンピック記念青少年総合センター)には222名が参加し、活動の歴史展示や震災を振り返るコーナー、ライブなどを実施。長年の関係者が集まり、交流を深める場となった。

相馬編(5月31日～6月1日/相馬ポニー牧場)には209名が参加。地元関係者も交え、思い出の場所で当時のエピソードを語り合い、活動の意義を改めて共有した。

閉鎖後の施設や土地の活用については、譲渡や売却を含めて検討を続けており、資産の有効活用を目指して協議を進めている。

2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理

2.1. 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の2年目)

10月から12月にかけて実施したポニー舎の断熱改修工事では、断熱材の充填に加え、空調設備の更新および全照明のLED化を行い、飼育環境の改善と省エネ化を推進した。約3ヶ月の工期中、利用者からは休止を惜しむ声が多く寄せられたが、ポニーたちが他施設に移動する前後に「いってらっしゃい企画」「おかえりなさい企画」と題したイベントを開催した。定例のニンジンあげイベントの参加者は通常100名程度であるが、出発前には約300名、帰着後には約150名もの来園があり、当施設のポニーが地域住民に深く親しまれていることを再確認する機会となった。

子供達が動物のお世話や接客を行う動物クラブの活動は、工事期間中に昼食場所が確保できなかったり、活動に一部制限が生じたりしたが、年間の延べ利用人数は昨年度を上回る結果となった。この要因としては、例年3月に実施していた動物クラブの更新手続きをオンライン化し、事務作業を大幅に簡略化したことが挙げられる。従来、3月は窓口対応のために利用制限を設けていたが、デジタル化による効率化で受け入れを継続できたことは、地域における「居場所」の機能を維持する上で大きな意義があった。これにより、卒業を迎える子どもたちに対しても、活動を途切れさせることなく丁寧な送り出しの機会を確保することが可能となった。

また、動物クラブの子供達には、ポニーまつりでの運営補助を依頼した。子供達にとっては普段経験していない大きなイベントであったが、日頃の活動の経験を活かして多大な貢献を見せてくれた。工事中の代替策として実施した計3回の日帰り遠足も含め、こうした多様な活動機会が、普段の活動から足が遠のいていた子供達の復帰や、参加意欲の向上に繋がっている。

2024年度に亡くなった先代犬に代わり導入した新しいふれあい犬については、スタッフおよび動物クラブの子供達とともにトレーニングを重ねており、多くの人に愛される存在となることが期待される。



所管課	目黒区都市整備部道路公園課
面積	3,310 m ²
飼育動物	ポニー(6頭)・ウサギ・モルモット・イヌ・カメ
主な事業	ポニー乗馬(引馬)・小動物とのふれあい ポニー教室 個人:小中学生 団体:障害児者グループ、健常児者グループ、幼稚園・保育園・学校など 医療的ケア児と家族のためのスペシャルプログラム 動物クラブ 各種受け入れ(ボランティア、中学生職場体験、大学生の研修など) 各種イベントの実施(エサあげ体験、クイズラリーなど) 碑文谷ポニーキャンプ(現役生向け)

2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場(受託・1年契約)

昨年度に引き続き、馬場の改修工事が実施された。これにより、雨天後の排水がスムーズに行われ、乗馬教室中の水抜き作業はほぼなくなり、暑い日を除けば、これまでよりも多く乗馬練習を実施できた。しかし、夏の暑さ問題は深刻で、保護者協力のもと日除けネットを張り、日陰の場所を作り出してはいるが追いついていない。そこで教育委員会と協議し、乗馬教室の開催時間を暑さに応じて変更できるようにし、柔軟に対応することができた。今後については、近隣の地区センターを借りて子供達の居場所の分散化等を図り、安全に乗馬教室を行っていくことを話し合った。

今年度も、小貝川ポニー牧場を訪ねて「障害児乗馬教室の遠足」「川遊び」「マラソン大会」を実施した。小貝川ポニー牧場が今年度で閉場することを聞き、参加者は惜しみつつも各々楽しんでいた。



所管課	葛飾区教育委員会事務局地域教育課
面積	3,263 m ²
飼育動物	ポニー(13頭)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) ポニー教室 個人:葛飾区在住・在学の小学校1年生から中学校3年生 団体:区外を含む中学生以下の団体 障害児乗馬教室(パートナーアニマル教室) 個人:葛飾区在住・在学・在勤の小学校1年生から20歳 団体:中学生以下の団体(区外利用可能だが中学生以上の新規受付は停止) イベントの実施 「区民感謝乗馬デー」「こどもまつり」「クリスマスホースショー」「マラソン大会」等 移動乗馬教室 「葛飾区こどもまつり」「かつしかスポーツフェスティバル」 介護予防乗馬(65歳以上を対象とした乗馬教室)年間4期(1期3回) 葛飾ポニーキャンプ

2.3. 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の2年目)

指定管理2年目である今年度は、昨年度に引き続き自主事業に積極的に取り組んだ。ドクターフィッシュ等のふれあい体験企画「アニマルタッチング」、午年である2026年に向けた「午年企画 ポニーとの写真撮影」などを行った。えさやり体験は、昨年同様大好評で利用者数も増加した。さらに、リスザルへのえさやり、江ノ島水族館より譲り受けたカピバラ2頭へのえさやりなども行った。こうした体験型の企画は根強い人気があるので、夏の閑散期対策としても有効である。

引馬の利用者数は天気大きく左右され、年度の前半は休日と荒天が重なったことで利用者数はなかなか伸びなかったが、3月は天候に恵まれ、7万人を超えることができた。

このほか、5月～11月の土日の30日間に、市内にある麻布大学の1年生150人(1日10人延べ300人)の実習の受入れを行ったほか、馬を大学に連れて行って行う実習26回も行い、地元大学の教育に貢献した。



所管課	相模原市環境経済局公園課
面積	15,000 m ²
飼育動物	ポニー(15 頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・リスザル・ミーアキャット シマリス・ハイラックス・シカ・プレーリードック・ウサギ・鳥類(クジャク・文鳥・チャボ・オシドリ等)、カピバラ
主な事業	ふれあいコーナー・展示コーナー・ポニー乗馬(引馬) ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 障害児ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 移動動物教室(市内施設及び団体対象) 動物フェスティバル(年2回)等各種イベント さがみはらっこポニーキャンプ・ポニーボランティア合宿

2.4. 板橋区こども動物園(指定管理・指定期間5年の1年目)

本年度は、新たな指定管理期間の1年目にあたり、通常プログラムの安定した運営を継続するとともに、産官学の地域連携をいっそう推進した一年となった。新たな取り組みとしては、地域団体との協働による「プレーパーク」を初めて実施し、より多くの参加者が自然の中での遊びを体験できる機会を提供した。

動物クラブでは、園内で花火を使用するイベントに初挑戦し、日常では得られない体験を通じて子どもたちとの新たな関わりを生み出した。さらに、区立熱帯環境植物館と新たに連携して羊毛イベントを開催し、学びと体験の幅を広げることができた。また、動物クラブ向けのポニー教室も複数回実施し、ポニーの魅力や動物との関わり方を改めて伝える機会となった。

「ZOOパークフェスタ」は天気に恵まれ、指定管理期間中で最多となる参加者数を記録した。キッチンカーを前年度の倍に増やしたほか、蹄鉄を使ったワークショップ、プレーパーク、熱帯環境植物館の展示、警察・消防車両の展示、さらに近隣商店街や教育機関、福祉施設、公共施設との協働プログラムなど、多彩な企画を展開したことで、参加者から高い評価を得た。

これらの取り組みを通じて、地域との連携が一層深まり、来園者にとって魅力ある体験を提供することができた一年となった。今後も、地域に根ざした施設運営を進めながら、より豊かな学びと交流の場づくりに取り組んでいく。



所管課	板橋区土木部みどりと公園課
面積	本園 1,907 m ² 高島平分園 583 m ²
飼育動物	ポニー(9頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウサギ・シカ・カメ・インコ・リス
主な事業	ヤギ・ヒツジの放し飼い、ふれあい・ヤギの屋根のぼり、橋渡り・モルモットのふれあい ポニー乗馬 引馬、親子乗馬、健康乗馬、障害者乗馬・ポニーの馬車 こども動物クラブ・ポニー教室、親子ポニー教室・親子動物クラブ、出張動物園、ふれあい、団体受け入れ 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ イベント開催(冬のミニイベント・ヒツジの毛刈り・ZOOパークフェスタ・ツリークライミング等) 板橋こどもキャンプ、大学・施設や企業との協働企画・公園管理、清掃、樹木管理

2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

上千葉砂原公園ふれあい動物広場は、地域の人たちが気楽に立ち寄ることのできる動物広場として愛されている。スタッフが園内の草取りをしていると、一般来場者の子供が手伝ってくれたりするアットホームな一面もある。

例年夏季は、高温によりプログラムが中止となることもあって利用者が減る傾向にあるが、今年度は終日中止となる日が少なく、比較的多くのプログラムを実施でき、前年度に比べて利用者が増えた。ポニー乗馬は、複数回乗る子供も多く、乗馬を堪能している様子がうかがわれる。ふれあいコーナーは、かつてのように特定の時間に利用が集中するということが減り、整理券による入場制限をする機会は減ったが、どの時間帯も途切れなく利用者がいるようになっている。

動物愛護クラブは、異なる学年の子供達が在籍しているので、高学年の経験者が経験の少ない低学年の子供に教え、作業をするといった様子がよく見られる。

また、昨年度に引き続いて、隣接する東京都立農産高等学校の動物取扱に関する実習事業の受け入れも行い、地域の学校の教育に貢献した。



所管課	葛飾区都市整備部公園課
面積	2,100 m ²
飼育動物	ポニー(5頭)・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・アカリス・リスザル 鳥類(クジャク・オカメインコ・オシドリ等)
主な事業	ポニー乗馬(引馬)・小動物とのふれあい ポニー教室(年3回/1回につき5日間)・動物クラブ・各種イベントの開催 移動動物教室(高齢者施設や盲学校など) 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ・中学生職業体験の受け入れ

3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

3.1. 「馬という領域」ミーティング

2月7・8日に、国立オリンピック記念青少年総合センターで、全国で行われている“馬で繋がる”“馬に学ぶ”“馬が癒す”“馬と働く”事例に学ぶ「馬という領域ミーティング」(主催：馬という領域ネットワーク)が行われ、ミーティングの実行委員として運営に携わった。当日は運営スタッフ・ボランティアを含め190名が集う盛会となり、運営にはハーモニセンター・ハーモニカレッジのカウンセラーも多数参加した。

このミーティングでの出会いが、新たな馬系キャンプが生まれるきっかけとなるなど、業界内での繋がりを増やすことに役立っている。今後も継続的に運営に携わり、ハーモニセンターの事業に反映させるとともに、馬という領域の活性化にも尽力していきたい。

3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業

TAWより助成金を得て、神奈川県相模原市・宮城県大崎市鳴子・東京都多摩地区・長野県茅野市の35施設を訪問。あわせて「人と馬のふれあいによるストレス軽減」調査研究のため4か所の施設を訪問し、乗馬体験を提供した。

蓼科ポニー牧場では「牧場フェスティバル」を11月15日に実施した。

相模原市：6月9日～11月30日 児童養護施設や支援学校など12か所を訪問

多摩地区：10月9日～12月19日 小学校や商店街など8か所を訪問

大崎市：12月2日～12月4日 小学校を中心に4か所を訪問

茅野市：11月10日～15日 不登校児対象事業含めて10か所を訪問

調査研究：6月5日～12月11日 公園など4か所を訪問

3.3. 馬が介在する活動の運営に関する指導と実習の場等の提供

高校、大学、専門学校等の求めに応じて、馬が介在する活動の運営ノウハウを伝える講習・授業を提供した。また、各事業所において、専門学校等の実習の受け入れを行った。

① カリキュラムに組み込む形で実施されたもの

実習：麻布大学(大学および相模原麻溝公園)

授業：東京都立農産高校(上千葉砂原公園)

② インターン等個人単位の希望を受けたもの

日本ペット&アニマル専門学校、国際動物専門学校、神奈川大学、東京環境工科専門学校、ビジョナリアーツ専門学校、麻布大学、ヤマザキ動物看護大学、帝京科学大学、TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校、中央動物看護専門学校、神戸動植物環境専門学校

また、公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会「馬の多様な利活用を推進する講習会開催等事業」として、11月1日に令和9年度よりポニーの飼育を開始する計画を持っている嵐山学園(情緒障害児短期治療施設)の職員を対象に実施された講習会に講師とポニーを派遣。11月8日に多摩川河川敷で実施した(前項の「多

摩地区」の一部)「ポニーとふれあう会」には、前年の講習会の対象であった多摩大学・松本祐一ゼミのメンバーが駆け付け、おもちゃ作りのワークショップを行った。

3.4. Riding for all に向けて

我々が目指すところの「Riding for all」に近づけるべく、多様な対象者に向けた事業を広く展開した。

世田谷区医療的ケア児等支援事業の助成金を得て行う「医療的ケア児と家族のためのポニーとゆったりふれあい体験」は3年目となり、9月23日に国立成育医療研究センターの中庭で、11月15日には小貝川ポニー牧場で実施した。碑文谷公園こども動物広場における医療的ケア児とその家族を対象としたスペシャルプログラムは2年目となり、4回が行われた。

この年度には、「Road To Mongolia」という新たな取組も始まった。これは、渋谷区を中心に誰もが遊びや運動を楽しめる環境作りを目指しているインクルーシブ運動場、様々な運動を取り入れながらサポートが必要な障害をお持ちの方々が日々健康に過ごせるようにサポートする一般社団法人 Su-Clu-Lab Terrace と共に、障害のある方がモンゴルの大草原で馬に乗り疾走するという夢を叶えること、その先で障害ある方々を対象としたモンゴルでの乗馬プログラムを開発し、障害があっても夢をあきらめない社会を創造することを目的としたプロジェクトである。

初回は、サクラボテラスに通う1名の車椅子ユーザーの方を対象とし、約1年間の練習を経て6月23～28日の日程で、ハーモニセンタースタッフ3名・サクラボテラス職員2名を伴って計6名でモンゴルを訪問。6日間のうち3日間、みっちり乗馬をし、馬に乗り疾走するという夢を実現した。今後も対象者を増やし、挑戦者・サポートメンバーが「夢をあきらめず挑戦すること」を追求することで、一人でも多くの方々に「夢に挑戦していいんだ」と感じてもらい、障害があっても夢をあきらめない社会を創造したいと考えている。

また、社会的養護下にある子供達とその里親家族を対象に、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団の助成金を得て7月11日～13日に蓼科ポニー牧場で「里親子ファミリーキャンプ」を実施した(3年目)。さらに、この事業によってつながりが生まれた全国里親会が、同財団の助成により1月16日～18日で実施した「ユースキャンプ」を蓼科ポニー牧場で受け入れた。同じく、社会的養護下の子供たちを対象とした事業として、NPO 法人ブリッジフォースマイルが実施する仕事体験事業「ジョブプラクティス」の受け入れを板橋、ポニースクール、相模原、碑文谷、上千葉で行った。



4. 川べり環境の整備及び活用の推進

4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム

例年好評を博しているカヤック教室を7月・8月・9月に小貝川で実施。大雨の影響を受けて中止した回もあったが、参加者は延べ 52 名を数えた。酷暑が珍しくなくなった昨今は、夏季のプログラムとして身近な川でのカヤックや水遊びに注目が集まっていると実感している。昨年復活したが雨天のため中止となったEボート大会は、NPO 小貝川プロジェクト21と共同で企画した。牧場関係者が 50名、ポニースクールかつしかからのエントリー10名、地元の参加者20名と盛況だった。

その他、夏季には田園調布の子供を対象としたワンデイキャンプ、ポニー教室、ひとり親家庭福祉協議会などでも、川遊びを実施。酷暑で野外プログラムの熱中症対策のためにも積極的に川遊びを行った。

活動場所の保全と河川敷整備を目的に、ゴミ拾い、草刈り、ポピーの種蒔き等を随時実施。特に河川が増水した後は、放牧場やその近辺の活動場所に堆積したゴミや木くず等の撤去、ポピーとコスモスの種蒔きをポニー教室の参加者や保護者の手を借りて行い、フラワーカナルで NPO 小貝川プロジェクト21のメンバーと共に行うことがあった。作業を通じて、子供達は川の力とゴミ問題について楽しみながら学び、同時に保護者との交流を深めることにつながった。

4.2. 河川騎馬パトロール

河内町教育委員会と共同で、河内町の利根川沿いの広大な河川敷サッカーグラウンドをお借りして河川騎馬パトロールを6月と11月の2回実施した。ポニーの手綱操作とバランス練習の後に外乗をし、河川パトロールを行った。これは10年前から実施しており、河内町のリピーターが多い。

また、ポニー教室や乗馬レッスンでも小貝川の河川敷を外乗しながら、四季折々の草花や野生の鳥や生き物を馬上から眺めつつ、川の水量やゴミ等の漂着物を確認し、倒木や落ちそうな枝を除去している。日頃から活動場所としているフィールドだからこそ、僅かな変化に気付くことができおり、安全確保に役立てている。

5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

5.1. モンゴル大草原乗馬交流

この年度も、「大草原騎馬トレッキングと遊牧民生活体験6日間」として継続実施した。2コース実施し、Bコース(8/15-20)は定員の16名に達したが、Aコース(8/1-6)は7名と参加者数が伸び悩んだ。旅行代金の値上がり、一定の乗馬スキルを参加要件にしていることなど様々な要因が考えられるため、来年度は一度お休みをし、今後の本交流の在り方を検討し再開に向けて準備を進めていく。



5.2. 日独青少年相互交流計画

8月11日～25日に日本青年14名(+引率1名)がドイツを訪問した。現地では、昨年度訪日したドイツ青年も多数参加し、コロナ禍以降初のドイツでのプログラム実施はとても充実した交流となった。今後も協力者や寄付者を募りながら発展的に継続させていきたい。

また3月14日には昨年度に引き続いて、ドイツ国際平和村の日本人スタッフによるオンラインイベントを開催し、14名が参加した(参加費は全額ドイツ国際平和村に寄付)。ドイツ訪問に参加した日本人青年からの報告の時間もあり、貴重な機会となった。交流の関連イベントとしても今後も継続していきたい。



大野重男初代理事長がモンゴル政府から「北極星勲章」を受章

「北極星勲章(アルタンガダス)」はモンゴルの国家勲章で、外国人に授与される勲章の中では最高位のもので、1999年の教育功労勲章(外国人初。同時に中央県教育長より中央県における教育貢献に関する功労賞も)、2002年の大統領国際平和功労勲章に続いて、3度目の受章となります。

「大草原青空識字移動教室」が始まったのは1993年。9年間で9,800人もの遊牧民の子供達が学びました。同時に国立教育大学の校舎の一部を間借りして日本語学校を開校、これはやがて単科大学になり、今ではモンゴル文化教育大学へと発展しています。

教育功労勲章受章の際、大野初代理事長は「これまで、移動教室や大学の創設・運営を一生懸命応援してくれた大勢の日本人、内蒙古の友人たちを代表してお受けする。」という旨の言葉を残しています。

日本語学校開校に向けては、1992年12月にモンゴル大草原騎馬トレッキング既参加者が「モンゴル応援隊」を結成し、日本語教授の具体的な方法、資金調達について議論を重ねました。入学式には選考に漏れた30名近くの青年が駆け付け(定員40名、応募は5倍)、「何とか自分にも日本語を学ぶチャンス」と目を真っ赤に泣き腫らして懇願し、その姿に接した大野理事長は「教室の新規借り上げ、教材・教師の手配などを考え、なるべく早くあの熱心な青年たちの願いに答えてあげたい」との思いに駆られたそうです。こうした“理屈抜き”の出会いの連続がハーモニセンターの歴史と言えるのかもしれません。



6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

月刊紙として各号2,500部を発行した。

新しいキャンプの情報や、各事業所におけるイベント情報・報告や、外部団体との連携事業などを積極的に取り上げ、幅広い情報発信を行うとともに、移動乗馬教室やイベントの際に配布するなど、新たな参加者・会員等獲得のツールとして活用した。特に、2026年2月21日～23日に馬事公苑で行われた「HORSE MESSE」では、持参した機関紙の在庫がなくなるほど配布することができた。

6.2. WEB広報

ホームページ(<https://harmonycenter.or.jp/>)とSNS(Facebook・Instagram)を利用した情報提供を行った。基本情報の提供だけでなく、キャンプやイベントの告知も積極的に行った。Instagramについては各動物広場での運用も始まり、動物広場の存在をより身近に感じていただける広報への取り組みも進んでいる。

小貝川ポニー牧場が閉場することをきっかけに内容を見直し、今後、数年をかけてWEB広報のリニューアルを行うこととした。利用者の利便性を高めるとともに、より多くの人にハーモニーセンターを知ってもらうため、イベント等の告知にとどまらず、より興味を持ってもらえるようなコンテンツ提供を模索していく。

7. その他

7.1. 規程変更と新設

法改正及び事業運営の実態に合わせて、就業規則、賃金規程、育児・介護休業規程、退職金規程を改正した。また、今後の資金運用に備えて、資金運用規定を新たに設けた。

7.2. 馬の管理

法人所有馬 69 頭のほか、板橋区が所有する 8 頭を管理受託。昨年同様、引退競走馬支援団体(TCC)より 1 頭、個人所有馬 3 頭を預託し、計 81 頭の馬を繋養した。今年度は、高齢馬 8 頭を引退させ、各事業所の世代交代を促したが、小貝川ポニー牧場の閉場に伴い、購入は 1 頭のみであった。これまで蓼科ポニー牧場と小貝川ポニー牧場が馬の補完基地としての役割を担ってきたが、小貝川ポニー牧場が閉場したため、法人全体での馬の世代交代や、調教などをより計画的に進めていく必要がある。

ポニーステイ事業では、諏訪市立上諏訪小学校に貸し出していたポニーが、1月に老衰のため亡くなった。この出来事は、馬が子供達に教える最後で最大の授業となった。たくさんの方々に見守られた最期は、“馬生”を全うしたと言わざるを得ない出来事であった。

馬を通して、子供達の心を豊かに、たくましく育てていくために、より良い、そして長くパートナーとして活躍してくれる馬作りを進めていきたい。

7.3. カウンセラー・職員等の研修

A. カウンセラー募集と研修

ボランティア募集サイトやホームページからの問合せを中心に、63名の新しいカウンセラーが登録してくれた。例年よりも新規登録者がやや減っているため、ボランティア募集サイトの受付可能人数の拡大、すでに活動してもらっているカウンセラーからの紹介、学校への直接のアプローチの3つにより力を入れていきたい。

夏冬春休みキャンプの参加延べ人数は昨年の180名から150名に減少しているものの、昨年度と今年度登録し継続して参加してくれている人は多い。キャンプ、移動乗馬、研修会に積極的に参加するだけでなく、広場キャンプなどにも参加する中で、受託事業担当職員との関係も築き、様々な事業において幅広く活動を支えてくれている。また、11月に実施した「ガキンチョ魂(カウンセラー文化祭)」や2月に実施した「ハーモニイソングコンサート」などカウンセラー主体の大型イベントも行われており、カウンセラー自身のやってみたいという気持ちを拾い上げながら、活動の幅を少しずつ広げていきたい。

登録カウンセラー数

継続登録者数	新規登録者数	合計
80 名	63 名	143 名

B. 職員研修

研修委員会を中心に内容を検討し、以下の通り職員対象の研修を行った。今年度は昨年度から区分を減らし、3年代のみの実施となった。(40,50代は隔年での実施に)

日程	主な内容	対象者
6月9日	団体理念と歴史・馬の取り扱い・接遇マナー	1・2年目職員
12月8日	他園(よこはま動物園ズーラシア)見学とアニマルウェルフェアについて	20代職員
12月15日	動物福祉・それぞれの取組発表	30代職員

※馬の取扱については、各事業所で巡回研修を行った(蓼科ポニー牧場の項参照)

※このほかにも、担当事業に関連する外部研修に職員を積極的に派遣した。

7.4. 会議等

1. 理事会・評議員会等

第1回理事会 5月27日

第1号議案 2024年度事業報告及び決算承認の件

第2号議案 定時評議員会開催の件

第3号議案 評議員及び役員改選の件

定時評議員会 6月17日

第1号議案 2024年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認の件

第2号議案 評議員及び役員改選の件

第2回理事会 7月20日
第1号議案 代表理事及び業務執行理事選定の件

第3回理事会 10月20日(書面決議)
第1号議案 役員報酬の件

第4回理事会 3月16日
第1号議案 2026年度事業計画書、予算書、新調達及び設備投資見込み承認の件
第2号議案 規程改正の件
第3号議案 資金運用規程の件
第4号議案 公益充実資金積立の件
第5号議案 期末賞与支給の件
第6号議案 重要な使用人の選任の件

2. その他

新年互礼会 1月19日
入職式 4月1日
運営会議 4月21日・5月7日・6月17日・7月9日・10月1日・11月4日・12月16日・1月9日
 1月20日・1月30日・2月17日・3月23日
施設長会議 5月12日・6月17日・7月14日・9月5日・10月6日・11月4日・12月16日
 1月20日・2月17日・3月23日

7.5. 法人事務

円滑に法人運営が行えるよう、以下の事務を行った。

- (1) 事業執行管理
- (2) 経営管理
- (3) 人事労務管理
- (4) 会員管理
- (5) 寄付金・助成金事務
- (6) 渉外事務
- (7) 庶務

7.6. 賛助会員

賛助会員A 662 世帯
賛助会員B 82 名
賛助会員C 18 名

7.7. 法人の運営体制の充実を図るための取組

法人の運営体制の充実を図るために、以下の取組を行った。

(1) ガバナンスの強化(理事会・評議員会等の適正な運営)

定款及び規程に基づき、理事会及び評議員会を計画的に開催し、意思決定プロセスの透明化と監督機能の強化に努めた。事前に資料を配付し、十分な審議時間を確保できるように配慮した。

当年度は役員及び評議員の改選期であったが、役員候補については現役員を含む多くの意見を集約し、評議員候補については評議員名簿作成委員会を組織して、公正な候補者選定を行った。

また、役員については理事会以外にも、外部有識者を交えたミーティングを複数回開催し、具体的に運営体制を検討する環境を整えた。

(2) コンプライアンス(法令遵守)体制の整備

「学校等における児童対象性暴力等の防止等に関する法律」の施行を見据え、将来的に認定事業者となるための情報収集に努めるとともに、申請手続きに必要な G-BizID の取得や規程作成に向けた準備等を行った。

また、労働基準法や育児・介護休業法等の法改正に合わせ、就業規則をはじめとする関連規程の改訂を行い、法令を遵守した適切な労働環境の整備を推進した。

こうした取組については、月 1 回、評議員・役員・職員を対象に発行するニュースレターをはじめ、様々な媒体を通じて組織内への周知徹底を図った。

(3) 内部管理・財政基盤の健全化

会計管理について、公益法人会計基準を厳格に適用し、遅滞なく実務を執行した。各事業所の収支も含めて月単位で迅速に把握し、財務状況の適切な管理に努めた。

長年未利用となっていた旧相馬ポニー牧場の資産譲渡に向けた交渉を進めたほか、次年度以降の周年事業等を見据えた寄付金の受入体制の整備に着手するなど、中長期的かつ健全な財政基盤の構築へ向けた改善に努めた。

ポニーキャンプ®・ポニークラブ®は公益財団法人ハーモニセンターの登録商標です



公益財団法人ハーモニセンターは、非営利組織の信頼の証である
「グッドガバナンス認証」(公益財団法人日本非営利組織評価センター)を取得しています。